



# 碧空



第2号

令和3年度がスタートして、3ヶ月以上が過ぎ、今日が1学期の終業式となりました。入学式や始業式と変わらず、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、一人一人の間隔をできるだけ確保するなど、対策を十分に行い、全校生徒が体育館に集まって実施することができました。

## 1学期終業式の校長講話 能力を高めることを考える

先週の木曜日、絆コンサートがありました。本当に温かい、感動的な時間を全校の皆さんと過ごすことができたことを、心から感謝したいと思います。発表してくれたクラスの皆さん、そして特に3年生、本当にありがとうございます。先輩から受け継いできた、美しい合唱の伝統を、下級生に伝えることができるよう、沢山の練習の時から、後輩をリードしてくれました。そして、聴いてくれた全校の皆さん。待つ時から、完全に無言で、くい入るようにして、心で音楽を受け止めてくれていました。本当にありがとうございました。常盤中学校の先輩たちが、どんなに聴くことを大切にしてきたか、そして温かさや感動に包まれる時間を創り上げてきたかを、考えて欲しいと思います。絆コンサートは、平成27年度に当時の校友会副会長の山辺文さんが発案し、校友会の伝統として、毎年、大切に引き継がれてきたものです。常盤中学校には、こんなに素敵な「絆コンサート」があるということは、全ての常盤中学校の生徒の皆さんの誇りであると思います。

今日は、2学期の終業式ということで、夏休みを迎えるにあたって、中学生として、どのような夏休みにして欲しいかについてお話ししたいと思います。

中学校3年生の夏休みは「天下分け目の夏休み」と言われることがあります。それは、高校入試に向けて学力を向上させていく上で、夏休みにどれくらい沢山受験勉強ができたかに、大きく影響するからだと思います。しかしそれは、3年生だけの問題ではないと思います。なぜなら入試の範囲は、1年生の時に学んだ事も、入試の出題範囲だからです。そして、1、2年生の夏休みに学習習慣がなくて、3年になって急に、「天下分け目の夏休み」と言われるぐらいの受験勉強ができるかということです。1年の時から、学習習慣をつけていかなければなりません。

中学校には、進路選択があります。

進路選択は、選択という部分もありますが、それは、ただ選ばばよいという意味ではなく、自分には、どういう能力や個性や適性があるか、どういうことをやって、どうやって生きていきたいかを考えることから始まります。そしてそれを考え続けて、いくつもある自分の可能性や、やりたいことの中から選択していくということです。それから、選択というよりも、自分が努力して、自分の思い描く進路をつかみ取っていくという部分があります。

高校に入ることが目的ではありません。入った高校で、どのように何をすることが目的です。中学校で、3年間かけて、自分の思い描く進路に適した高校の、入試に合格し、その高校でやっていけるための、学力や人間性を身につけなければならないということです。しかし、それは中学校3年間だけの話ではありません。高校に行ったら、大学入試や専門学校の入試、就職試験があります。大学に行ってもそうです。就職してもそうです。試験とか選抜ということが、この社会には、厳然とあるということです。そういうことに、自分の人生で初めて、中学生は直面しているということです。

そう考えると、点数や結果が気になってしまうのが人間です。しかし、人と比較したり、自分はだめだと思ったりしても、つらくなったり、人を認めないような変な優越感を持ってしまったりするだけです。何も向上しません。それでは、誰も幸せに生きていきません。

そういう厳しさの中でも、生きていくために大切なことは、自分が伸びたことや自分が頑張ったことを、具体的に、自分自身で意識して、自分自身で認めることです。そうやって、前に進んでいくことができます。人が何と言っても、自分の頑張りを一番よく知っているのは、自分自身です。

完璧な人はいません。全ての人はそれぞれ、様々な別々の能力を持っています。社会には沢山の人がいます。その全ての人が、自分が持っている能力を生かして、幸せに生きていかなければならないのです。だから、できないことを考えるのではなく、能力を高めることを考える、能力を生かすことを考えるということです。能力を高めようと、学び続けていること自体が幸せなことなのです。

能力を高めるために大切なことは、向上心と謙虚さです。向上心とは諦めない心や集中力だと思います。そして謙虚さとは尊敬や敬意の事だと思います。向上心と謙虚さを持っていれば、自分自身を高めることができます。そして、周りの人と関わって、高め合っていくことができます。

この夏休みに、そしてこれからの中学校生活で、自分は一人の人間として、この社会の中で、自分も人も幸せにするために、どうやって生きていくのかということに向き合って欲しいと思います。そして、そのために、今、自分にできることは、具体的に何なのかを意識して、生活して欲しいと思います。

厳しさから逃げずに、自分の能力を高めることや高めあうことだけに集中して、皆さん一人一人の、これからの時間を、充実感ややりがいや感動のある時間にして欲しいと、心から願っています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事の実施がとても難しい状況でしたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行い、できることを考えながら実施してまいりました。各学年の1学期の様子をお伝えします。

## 1学年 妙高自然体験学習

1学年は、5/26(水)に妙高高原の豊かな自然を感じ、学年・学級の仲間とのつながりを深めることを目的にした自然体験学習を学年全員の参加で無事に実施することができました。妙高アドベンチャープログラムでは、グループの仲間と一緒に相談したり、助け合ったりしないと解決できない様々な課題を、体をいっぱい使って楽しみました。オリエンテーリングでは、班ごとにまとまってチェックポイントに設けられている暗号を探したり、学習係が考えてくれたクイズに答えたりしながら高原を散策しました。班のまとまりを崩すことなく、一緒に笑顔で行動することができました。この自然体験学習で学んだ友達との協力することの楽しさ、一人一人が学年の行動を作っているという自覚を、これからの日々の学校生活に生かして欲しいと願っています。



## 2学年 職場体験・農業体験学習

2学年は、5/26(水)、27(木)の両日に将来の職業選択に向け、働くことについて知るキャリア教育の一貫として、職場体験学習と農業体験学習が行われました。職場体験学習はコロナ対策で、企業へは行かず、17の企業の方に学校へ来ていただき、お話や実技を体験しました。半日で各自90分ずつ2講座を体験しました。お話に真剣に聞き入ったり、体験に没頭したりする姿が見られました。

農業体験学習は、市内の11農家へ出向き、各自半日の時間で、リンゴの摘果・ブドウの房伐り、ブドウの根元に薬剤を塗るなどの農作業を体験しました。職場・農業ともに普段できない体験でした。26日の農業体験は、心地よい風の中で果樹栽培の作業の一端を体験することができましたが、27日の農業体験は雨で中止となってしまい、残念でした。今回の体験から「働くとはどんなことなのか？」自分自身で問い続けて、自分の未来を切り開いて欲しいと願っています。



## 3学年 キャリア学習講演会・進路講話

3学年は、5/26(水)、27(木)の両日にキャリア学習講演会と進路講話を実施しました。

26日は、キャリア学習講演会として、地域の様々な業種の方に講演をお願いしました。各自が興味のある講座を選択し、各講座20名程度の少人数での実施となりました。様々な質問に答えていただいたり、体験的な学習をしたりと内容の濃い講演を行っていただきました。自分の将来を考える良い機会となりました。

27日は、進路講話として、須坂創成高等学校、須坂東高等学校、須坂高等学校、長野日本大学高等学校の4校の先生方にお話しいただきました。学習の大切さや各校の特色、基礎学力の大切さ等を聴きました。また、公開授業や体験入学の紹介があり、各校を調べてよく高校のことを知ってから進路選択をしてほしいとアドバイスしていただきました。それぞれが今から何をすべきか考えるきっかけとなる講話でした。



## 長期休業中における学校閉庁日について

今年度も須坂市内の小中学校は、令和3年8月10日(火)～16日(月)を学校閉庁日(学校リフレッシュ・ウィーク)として設定させていただきました。この期間は終日、留守番電話対応となりますので、ご承知おきください。なお、緊急事態の場合は、須坂市役所の代表電話番号(245-1400)まで、ご連絡をお願いいたします。

須坂市立常盤中学校  
担当：北澤 佳一(教頭)  
電話：245-0326